



なっとくんの

なるほどなっとくニュース

Community Museum「地域の宝・学校の宝」学校を中心とした地域の教育的環境の活用をめざして

※なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

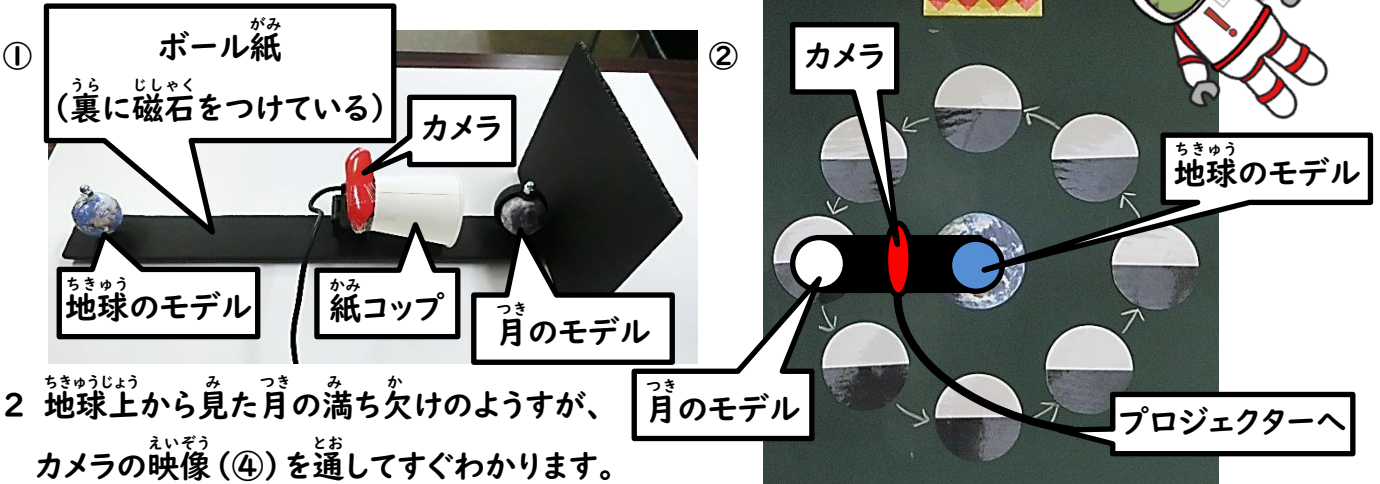
「月の満ち欠け」をモデルで考えよう

やまぐちほくぶつかん
山口博物館



「月の満ち欠け」の学習でおすすめているのが、「モデルをつくる」ことです。今回は、その一例を紹介します。教科書などにもいろいろな方法が掲載されています。ぜひチャレンジして、ものづくりを楽しみながら理解を深めましょう。

1 ①の装置を②のように黒板にはります。



2 地球上から見た月の満ち欠けのようすが、カメラの映像(④)を通してすぐわかります。

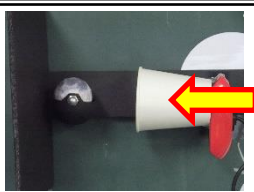


月の影は、カプセルイのカプセルを半分に分けてつくりました。動くので、いつも月の下半分(太陽とは反対の面)が影になります。

②では、月はすべて上半分が光っている半月に見えますが、地球上から見ると、月はいろいろな形に見えます。



考えてみよう



左の図の場合、月はどのような形で見えるでしょうか？右の図に、影になる部分を黒くぬってみましょう。

